

国際シンポジウム

「シャルロット・ペリアンと日本—モダニズムと伝統の融合」

基調講演：ジャック・バルザック（ペリアン研究、美術史家）

パネリスト：ペルネット・ペリアン＝バルザック（シャルロット・ペリアン・アーカイヴ代表）

ジャック・バルザック（ペリアン研究、美術史家）

アンヌ・ゴッソ（ポルドー第三大学准教授、CRCAO研究員）

土田真紀（帝塚山大学非常勤講師）

豊川斎赫（国立小山工業高等専門学校建築学科准教授、芝浦工業大学大学院非常勤講師）

森 仁史（金沢美術工芸大学教授）

司 会：松隈 洋（京都工芸繊維大学美術工芸資料館教授）

日 時：2011年10月23日（日） 午後1時30分～4時30分（予定）

会 場：日仏会館ホール、恵比寿（〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿3-9-25）

定 員：120名（要申込、先着順受付） 日→仏の逐次通訳あり、無料

申込方法：住所、氏名、電話・Fax番号、メールアドレスをご記入の上、Faxまたはメールでお申込みください。
（申込先 Fax：0467-23-2464 メール：public@moma.pref.kanagawa.jp）

シンポジウム趣旨：

国際シンポジウム「シャルロット・ペリアンと日本—モダニズムと伝統の融合」は、2011年10月22日（土）から2012年1月9日（月・祝）まで神奈川県立近代美術館 鎌倉で開催される「シャルロット・ペリアンと日本」展と連動して企画されている。

シャルロット・ペリアン（1903-1999）は、20世紀モダニズム建築の世界的な巨匠ル・コルビュジエとその共同設計者ピエール・ジャンヌレとともに建築室内デザインに優れた仕事を残したフランス人建築家・デザイナーである。彼女は、前川國男、坂倉準三など1920年代、30年代にパリでル・コルビュジエに師事した日本人建築家たちと終生親しい友人であったばかりでなく、1940年に当時の商工省の招聘により「輸出工芸指導顧問」として来日、また戦後も1953年の「国際デザインコミッティー」（後に日本デザインコミッティー）に参加するなど、日本のデザイン界に大きな影響を与えてきた。なかでもペリアンが1941年に東京と大阪の高島屋で開催した「選択、伝統、創造」展、および1955年に同じく東京と大阪の高島屋を会場に開かれた「ル・コルビュジエ、レジェ、ペリアン三人展」は、日本のデザイン界に衝撃的な影響を与えた。今回の展覧会では、これらの展覧会場の再現を中心にしながら、1940年代から晩年までのペリアンと日本の「響き合い」について考察する。

本シンポジウムではペリアンの長女のペルネット・ペリアン＝バルザック氏とその夫でペリアンに関する著書が出版されているジャック・バルザック氏を招いて、パリのシャルロット・ペリアン・アーカイヴに遺された貴重な資料を紹介しながら、戦時下の日本でフランス人女性がどのような体験をし、またそこから何を学び、自らのデザインに取り込んでいったかを考察したい。ペリアンは、「民藝」のリーダー格である柳宗悦、その息子柳宗理、陶芸家の河井寛次郎のほか、版画家の棟方志功、タピスリーの製作に協力した龍村平蔵とその友人で美術家の長谷川三郎などと交友し、東北の山村まで自ら足を運んで調査を深めた。そのペリアンが提起したモダニズムと日本の伝統との融合を、建築、工芸、美術、デザイン、民俗学などさまざまな角度から、日仏両国の研究者が考察し、今日のデザイン史的な重要性を探ることを目的とする。

主 催：神奈川県立近代美術館

後 援：フランス大使館、日仏工業技術会、日仏美術学会、日本建築学会、日本建築家協会、日本インテリア学会

協 力：エールフランス航空

助 成：公益信託タカシマヤ文化基金、財団法人吉野石膏美術振興財団、 公益財団法人 ポーラ美術振興財団 POLA ART FOUNDATION

シンポジウム事務局：

神奈川県立近代美術館 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下2-1-53

tel. 0467-22-5000 fax. 0467-23-2464

担当：長門佐季 sk_nagato@moma.pref.kanagawa.jp

土居由美 doi@moma.pref.kanagawa.jp

神奈川県立近代美術館の最新情報は、

ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.moma.pref.kanagawa.jp>

モバイルサイトはこちら ⇒

